

平成 21 年度 傾斜的研究費 (全学分) 研究報告書

| 研究代表者 所属 | 産業技術大学院大学 産業技術研究科 | フリガナ | ヨシダ トシキ | 職 | 教授 |
|-------------|----------------------|---------|---------|---|----|
| | 産業技術研究科 | 研究代表者氏名 | 吉田敏 | | |
| 研究分担者所 属 | 産業技術研究科 | 研究分担者氏名 | 福田哲夫 | 職 | 教授 |
| | 産業技術研究科 | | 陳俊甫 | | 助教 |
| | 産業技術研究科 | | 大坪克俊 | | 助教 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

| | |
|---|---------------------------|
| 研究課題名 | 東京のものづくり特性を踏まえた人材育成に関する研究 |
| 研究実績の概要 (600~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。) | |
| <p>東京の現状を認識し、創造性を持ち、東京に根ざす人材育成の方向性を考えるための基盤的視点を示すものである。特に、アジアを代表する巨大都市東京の現状を把握する手法を提案し、その状況に即した人材育成というものの重要性を考える。これまで、大都市東京に関して、様々な観点から現状の理解や課題の提示などが試みられてきた。しかし、イノベーションに直結する技術特性を踏まえた視点からの人材育成に関する提案は極めて希薄であったといえる。そのため、本研究では、技術特性の把握について具体的に考察しながら、現状の課題に関する独自の視点を示す。それにより、求められる人材育成に関する方向性を示すものである。これまで様々な局面で議論されてきた東京の課題は多く見受けられた。しかし、東京の特性を把握し、それを前提にした議論は極めて薄目であったと言わざるを得ない。このような観点から、新しい問題点を提示していった内容が必要であるといえる。</p> <p>このために、本研究では、東京の様々な面を直接観察し、独自の視点から長所や短所を把握していき、それを体系化していくものである。</p> <p>具体的には、本学のPBL教育を通し、東京都の問題点を抽出し、大都市の抱える課題を明らかにしていき、現状を把握していったものである。これにより、東京都の現状を被教育者が自分達で捉える事が実践的に達成され、実際の社会活動の中で直接的に役立つ内容を示すことができたと考えられる。なお、成果の発表としては、日本建築学会大会や本学PBLの発表会などを利用したものである。</p> | |

平成21年度 傾斜的研究費（全学分）研究報告書

| 学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入） | | | | | |
|---|-----|-----|-------------|-------|-------|
| 城腰友（産業技術大学院大）・吉田敏・金田英之・坂田直哉・澤田英典・下田麻美 都市のオープンスペースに対する要求条件に関する一考察 日本建築学会2009年度大会、8046(CD-ROM)、2009年8月26日 | | | | | |
| 論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入） | | | | | |
| 日本の技術革新体系（国立博物館）平成22年3月31日発行 野城智也、吉田敏編著「第6章 技術革新の特性」、PP247-295 | | | | | |
| 科学研究費補助金への応募状況、採択状況 | | | | | |
| 平成22年度科学研究費補助金（基盤研究B）への応募、採択（研究テーマ「製品開発における統括的評価手法に関する研究」、本研究の体系化を発展させる内容） | | | | | |
| 国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況 | | | | | |
| 特になし | | | | | |
| その他社会貢献 [公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等] | | | | | |
| 特になし | | | | | |
| 研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況 | | | | | |
| 工業所有権の名称 | 発明者 | 権利者 | 工業所有権の種類・番号 | 出願年月日 | 取得年月日 |
| 特になし | | | | | |